



2019 年 ボッシュ・グループ年次記者会見 ボッシュ、日本国内の 2018 年売上高は 3,250 億円で前年比 10%増加 自動化、電動化、ネットワーク化技術の商用化が前進

2019 年 6 月 25 日
C/CGR-JP-2019-11

- ▶ 全世界での日系自動車メーカー*1 向けの売上は前年比 8.8%増加
- ▶ 自動化: 自動バレーパーキングの商用化へ向け実証試験を開始
- ▶ 電動化: 48V マイルドハイブリッドシステムが日本の自動車メーカー向けに量産
- ▶ ネットワーク化: 安全なキーレスエントリーシステム「パーフェクトリー キーレス」の開発車両を日本初公開
- ▶ ボッシュ、2020 年までに全世界 400 カ所の事業所でカーボンフットプリントをゼロに

東京 ― グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーであるボッシュの 2018 年度の日本国内における第三者連結売上高は、前年比 10%増の約 3,250 億円(約 24 億ユーロ)でした。2018 年の業績についてボッシュ株式会社代表取締役社長のクラウス・メーダーは、「2017 年から 2 年連続で 2 桁成長を記録することができました。特にモビリティソリューションズ事業は、同年の日本国内における自動車生産台数の前年比成長率 0.4%*2 を大幅に上回り、日本市場における弊社製品の浸透率の高まりを示しています」と年次記者会見で述べました。エネルギー・ビルディング テクノロジー事業以外のすべての事業セクターで売上が増加しましたが、中でも日本国内売上の多くを占めるモビリティソリューションズ事業が売上増加に貢献しました。これは主に、パワートレイン関連製品、先進運転支援システムなどのセーフティシステム向け製品、ボディエレクトロニクス製品の需要増加によるものです。「モビリティソリューションズ事業以外では、中国向けに油圧や電動駆動の産業機器用製品の需要が高まったことも売上増加に貢献しました。2019 年の日本のボッシュ・グループの売上高は、世界的な経済状況が不透明な状況ですが、モビリティソリューションズ事業の堅調な拡大により 5%程度の増加率となる見込みです」とメーダーは続けました。

日系自動車メーカー向け売上は全世界で 8.8%増加

ポッシュ・ジャパンは、全世界に広がるネットワークにより、日本市場のみならず日系自動車メーカーが海外市場で販売する車両の開発と生産をサポートしています。これはポッシュ・ジャパンの重要な役割であり、日系自動車メーカーとの取引はポッシュ・ジャパンの事業展開の指標でもあります。2018年、ポッシュの全世界における日系自動車メーカーへの売上は前年比で8.8%増加し、同年の日系自動車メーカーの世界市場における生産台数の増加率1.4%*3を上回りました。日系自動車メーカーへの売上は、2013年からこれまで年平均2桁の割合で増加しており、2021年まで同程度の成長率を見込んでいます。

自動化:物流関連施設で低速無人搬送の実証実験を開始

ポッシュは、自動運転の開発においてキープレイヤーの1社です。ポッシュが日本市場で注力している分野の1つに自動駐車があります。ポッシュとダイムラーは2017年にドイツ国内で、歩行者や人の運転する車が混走する実生活環境下において世界で初めて自動バレーパーキングのデモンストレーションを行いました。ポッシュの自動バレーパーキングは既存の駐車場にも導入することができるため、大きな市場潜在力があると考えています。ドイツに続き、2017年日本国内において自動バレーパーキングの専門組織を設立し、日本での商用化の可能性を市場、技術の両面から検討してきました。そして、今年日本国内の物流関連施設で自動バレーパーキング技術を応用した低速無人搬送の実証実験を開始しました。これは、グローバルのポッシュ・グループとして初めての実証実験で、実用化に向けたシステムの技術的な検証を行っています。

電動化: 48V マイルドハイブリッドシステムが日系自動車メーカー向けに今年量産

ポッシュは、電動化モビリティのマスマーケットをリードし、2025年までに電動化関連の売上を現在の約10倍にあたる50億ユーロに引き上げることを目標としています。昨年48Vマイルドハイブリッドシステム向けバッテリーの量産が中国で始まり、今年後半にはモーター、インバーター、ギアボックスを一体化させた電動パワートレイン「eAxle」の量産も始まる予定です。48Vマイルドハイブリッドシステムでは、今年後半に日系自動車メーカーからポッシュの製品を搭載したモデルが量産される予定です。このシステムは、コンパクトカーにも搭載できる費用対効果に優れた電動化ソリューションで、2030年には新たに全世界で生産される新車の26%に48Vのハイブリッドシステムが搭載されるとポッシュは予測しています。

ネットワーク化:パーフェクトリー キーレスの開発車両を日本初公開

キーレスの車両エントリーシステムの普及により利便性が向上する一方、中間者攻撃による自動車の盗難が問題になっています。標準的なキーレスエントリーシステムでは、長波と極超短波周波数で車両とキーの通信が行われます。一方、ポッシュの「パーフェクトリー キーレス」では、スマートフォンと車両がBluetooth経由で通信します。そのため、ドアのロック・アンロック、エンジンの始動のためにキーを物理的に持ち運ぶ必要がありません。スマートフォンと車両の通信では、スマートフォンに内蔵されたBLE(Bluetooth Low Energy)チップが重要な役割を果たします。パーフェクトリー キーレスは、チップごとに異なる電波の特性が適合した場合のみ作動します。つまり

データの無線転送を試みる他の電子機器の信号をブロックすることができ、これにより車両への不正アクセスを防止します。パーフェクトリー キーレスはクラウド経由でデジタルキーを管理できるため、所有用の乗用車だけでなく多数のユーザーが同じ車両を使用するカーシェアリング用車両や運送会社などの事業者が所有するフリートで使用することができます。年次記者会見では、パーフェクトリー キーレスの開発車両を日本で初めて公開しました。

従業員にとって魅力的な雇用者へ、ダイバーシティとインクルージョンの推進

従業員のために労働環境を向上させることは、ポツシュにとって事業への投資と同様に重要な経営戦略の1つです。「ポツシュは、従業員が公私のバランスを保ち安心して働くことができる環境を整えること、そして様々な属性・バックグラウンドを持つ従業員全員が尊重されるダイバーシティ(多様性)とインクルージョン(包括)の推進に力を注いでいます。」ダイバーシティの重要性についてポツシュ株式会社取締役副社長のアレクサンドレ・リースターはこう述べました。マッキンゼーの調査^{*4}では、性別、人種、文化のダイバーシティは、企業にとってトップタレントの採用、顧客満足度の改善、従業員満足度の向上につながり、結果として企業の業績と深く関連していると結論付けています。

有給休暇の取得: 従業員の心身の健康を養うために、ポツシュは30年以上前から有給休暇取得を促す活動を行っています。現在では、非管理職の有給休暇取得率は98.2%まで高まりました。これは、日本の平均49.4%^{*5}を大幅に上回っており、ポツシュの従業員は年20日新たに付与された有給休暇を平均で19日以上使用していることとなります。

柔軟な勤務制度: 育児・介護、通勤時間、時差のある海外事業所とのやり取りなど、従業員の働き方に影響を及ぼす要素は様々です。個々の従業員が自分に合った働き方ができるよう、現在ポツシュが最も注力している人事施策の1つが多様な働き方の支援です。ポツシュ株式会社は、2011年に育児・介護のための在宅勤務制度を導入し、現在では在宅勤務に適した業務を行う全ての従業員に在宅勤務が認められています。短時間からの在宅勤務が可能のため、フレックスタイム制度と在宅勤務を組み合わせると、柔軟で自由なスケジュールを組むことができます。

ダイバーシティとインクルージョン: 従業員のダイバーシティとインクルージョンの推進は、ポツシュにとって競争力を高めるための重要な経営戦略です。ポツシュは、人種、性別、年齢、国籍、宗教、障がい、性自認、性的指向などに関わらず、他者を受け入れ、機会均等と多様性の尊重を積極的に推進します。直近ではLGBTQに関わる取り組みを強化しており、社内にLGBTQ当事者やアライの社内ネットワークが立ち上がり、行動を起こしています。

ユニークな定年再雇用制度: ポツシュには定年を迎えた従業員のスキルを活用する仕組みのひとつとして、Bosch Management Support(BMS)制度があります。スキル、経験を持った定年退職者と支援を求めるプロジェクト担当者をマッチングさせるプラットフォームがあり、これまで200近くのプロジェクトにBMSの人材が派遣されています。

障害者雇用: ボッシュは、質の高い障害者雇用を実現するため、2017 年末に業務サポートセンターを設立しました。ここでは、主に精神・発達障害を持つ人を積極的に採用しています。精神・発達障害を持つ人は、社会的な偏見や雇用義務化の遅れにより就業率が、身体または知的障害を持つ人より著しく低い*6です。また、離職率が高く、統計によると、精神障害者の半数が、1年以内に離職しています*7。このように精神・発達障害を持つ人は就業が困難な状況にありますが、ボッシュの業務サポートセンターでは、英語、エンジニアリング、医療など専門的な知識や技能を持つ多様な人材が社内の100以上のプロジェクトを受託し、活躍しています。業務サポートセンターの設立以来、20名以上の精神・発達障害を持つ人を雇用しましたが、現在まで離職者はでていません。業務サポートセンターでは、管理者全員が企業在籍型職場適応援助者という障害者雇用の専門資格を持っており、その中には、精神・発達障害の支援に関する国家資格、精神保健福祉士を持つ者もいます。こうした専門知識を持つ管理者が個々の従業員の労務管理とキャリア開発を手掛けており、さらに、管理者から課員へ積極的に権限移譲を行っています。新規採用の一部も権限委譲することで、コミュニケーションスキルの向上や後進育成を促進しています。こうした施策がボッシュでの高い職場定着率につながっています。今後は、法定雇用率の確保にとどまらず、全社生産性向上への貢献、従業員のキャリアアップへ向けた制度の整備に取り組んでまいります。

ボッシュ・グループ 2019 年の見通し: 気候変動対策と大気質対策

ボッシュは、2019年の世界経済の成長は限定的なものと予想しています。ボッシュにとって重要な産業や地域が困難な状況にありますが、今年の売上高は2018年の水準をわずかに上回ると予測しています。ボッシュ・グループは短期予測に左右されることなく、気候変動対策に取り組み、大気環境を改善するための努力を強化しています。気候変動は、SFの世界の話などではなく、実際に起こっていることです。私たちがパリ協定に真剣に向き合おうとするのであれば、気候変動への対策を単なる長期的な願望と捉えないことが重要になります。つまり、今すぐに対策を講じる必要があります」。ボッシュ取締役会会長のフォルクマル・デナーは年次報告記者会見においてこのように述べ、さらにこう続けました。「私たちはまた、都市の大気環境の改善を求める声に応えるべく、さまざまな活動に取り組んでいます。私たちはイノベーションリーダーとして、環境保全問題に対する技術的なソリューションを提供していきたいと考えています。」

これが、一方で、ボッシュがすでに成功しているCO2排出量削減の取り組みを強化している理由です。「ボッシュは、野心的な目標を1年あまりで達成する初の大手企業となります。」とデナーは述べました。また、ボッシュは大気質に関しても野心的な目標を掲げています。「私たちは、道路交通に起因する大気汚染をほぼゼロに抑えたいと考えています。これを実現するために、私たちは車両に起因するものだけでなく、さらにその先を見据えています」と、デナーはさらに続けました。この取り組みは、3本の柱で構成されています。それは、汚染物質の排出量が少ないパワートレイン技術を開発する

こと、交通が滞りなく流れるよう、地方自治体と協力しながらプロジェクトに取り組むこと、ポッシュの各拠点にモビリティ管理システムを導入することです。

*1 日系自動車メーカーには、二輪車メーカー、農建機メーカーを含む

*2 JAMA 自動車統計

*3 ポッシュの自社調査による

*4 McKinsey & Company, Delivering through diversity report 2018

*5 厚生労働省「就労条件総合調査 2017 年」

*6 厚生労働省「平成 29 年障害者雇用状況の集計結果」

*7 厚生労働省「障害者の就業状況等に関する調査研究 2017 年」

報道関係対応窓口：

角谷 清彦

松本 有可

電話：+81-3-5485-3393

日本のポッシュ・グループ概要

日本のポッシュはポッシュ(株)、ポッシュ・レックスロス(株)、ポッシュ パッケージングテクノロジー(株)その他の関係会社から構成されます。ポッシュ(株)は自動車用パーツの開発、製造、販売そしてサービスの業務を展開し、また自動車用補修パーツや電動工具も取り扱っています。ポッシュ・レックスロスは油圧機器事業、FA モジュールコンポーネントやその他のシステムの開発と生産を行い、日本の産業機器技術に貢献しています。ポッシュ パッケージングテクノロジーは包装機械メーカーおよびインスペクション・テクノロジーの開発を行う会社です。さらにポッシュセキュリティシステムズ株式会社は、人命や建築物、財産などを守る製品とソリューションの提供を主要な事業としています。2018 年の日本のポッシュ・グループの第三者連結売上高は約 3,250 億円で、従業員数は約 6,800 人です。

世界のポッシュ・グループ概要

ポッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。従業員数は約 41 万人 (2018 年 12 月 31 日現在) を数え、2018 年度の売上高は 785 億ユーロを計上しています。現在、事業はモビリティ ソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、およびエネルギー・ビルディングテクノロジーの 4 事業セクター制で運営しています。ポッシュは IoT テクノロジーのリーディングカンパニーとして、スマートホーム、スマートシティ、コネクテッドモビリティ、さらにコネクテッドマニュファクチャリングに関する革新的なソリューションを提供しています。ポッシュはセンサー技術、ソフトウェア、サービスに関する豊富な専門知識と「Bosch IoT cloud」を活かし、さまざまな分野にまたがるネットワークソリューションをワンストップでお客様に提供することができます。ポッシュ・グループはコネクテッドライフに向けたソリューションの提供を戦略的な目標に定め、私たちは革新的で人々を魅了する製品とサービスを通じて、全世界の人々の生活の質を向上させることを目指しています。この方針に基づき、ポッシュは「Invented for life」をスローガンに掲げ、人と社会に役立つ革新的なテクノロジーを提供し続けています。ポッシュ・グループは、ロバート・ポッシュ GmbH とその子会社 460 社、そして世界の約 60 の国々にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売／サービスパートナーを含むグローバルな製造・エンジニアリング・販売ネットワークは世界中のほぼすべての国々を網羅しています。ポッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界中の約 130 の拠点で約 6 万 8,700 人の従業員が研究開発に携わっています。

ポッシュの起源は、1886 年にロバート・ポッシュ (1861 ~1942 年) がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ポッシュ GmbH の独自の株主構造は、ポッシュ・グループの企業としての自立性を保証するものであり、ポッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ポッシュ GmbH の株式の大半は、非営利組織である公益法人「ロバート・ポッシュ財団」(持株比率 92%、議決権なし) が保有しています。議決権の大半はロバート・ポッシュ工業信託合資会社が保有し、株主の事業機能を担っており、残りの株式と議決権は創業家であるポッシュ家とロバート・ポッシュ GmbH が保有しています。

さらに詳しい情報は 以下を参照してください。

www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス (英語)

www.bosch.co.jp/ ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト (日本語)

<https://twitter.com/Boschjapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター (日本語)

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック (日本語)

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式 YouTube (日本語)